

◆短角種 ストレスが病気誘発 下痢、風邪の観察を

5月になるといよいよ放牧の開始となります。牛舎とは違って、山は寒く、雨、風、えさの変化など急激な環境の変化は、初放牧となる子牛にとって大きなストレスとなり、病気を引き起こす原因となります。

主な病気が下痢と風邪です。下痢といっても、便が草色で、子牛も元気がよければあまり心配はいらないのですが、白痢、黒色便、血便は要注意です。直ちに連絡して治療を受けることです。風邪（気管支炎、肺炎）は、まず

1. 元気があるかどうか
2. 鼻が乾いているか
3. 鼻水がないか
4. せきをしているか
5. 呼吸が速くないか

が観察のポイントです。子牛は体力がないために早期発見、早期治療がなにより大切で、ほうっておくと、たちまち悪化します。ですから、監視員から連絡があったら、直ちに牛の様子を見に行くとともに、診療所への往診依頼、牛舎（避難舎も含む）の手配をしてください。

